

日進市立南小学校保護者各位

日進市教育委員会 教育長 岩 田 憲 二
日進市立南小学校長 高 橋 雅 樹

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について（お知らせ）

本年度4月19日（火）に、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われ、国語、算数・数学、理科の学力調査と、児童生徒の学習意欲や生活習慣等についての質問紙による調査が行われました。その結果が文部科学省より公表されましたので、本校の概要を、日進市教育委員会がまとめた市全体のものとともにお知らせいたします。調査結果を今後の教育活動に生かしていきたいと考えております。

なお、この調査は学力の特定の一部を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。

1 日進市全体の概要

小学校6年生 国語、算数、理科の3教科全て、全国・愛知県の平均正答率より、やや高いという結果でした。

国語

【優れている点】

◎「書くこと」における「思考力・判断力・表現力等」の問題が優れています。

また、記述式の問題の正答率も高く、無答率は全国・愛知県より低いという結果でした。

【課題となる点】

●「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」について課題がみられました。

「異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができる」よう学習を積み重ねていきます。

算数

【優れている点】

◎「数と計算」や「図形」の領域における「思考・判断・表現」に関わる問題が優れていました。

【課題となる点】

●「割合を用いて問題を解決する場面において、数量が変わっても割合は変わらないことを理解する」について課題がみられました。

日常の場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるように指導をしていきます。

理科

【優れている点】

◎ 全ての領域において「思考・判断・表現」に関わる問題が優れていました。

【課題となる点】

●「実験で得た結果を分析して、解釈し、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の根拠を記述すること」について課題がみられました。

問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくりだす学習活動などを行っていきます。

質問紙

これまで同様、規則正しい生活をしている割合が高く、そのような児童は、規範意識、学習意欲、自己肯定感も高い傾向が出ています。

また、1日当たりのゲーム時間、SNSや動画視聴などを行う時間が長いほど各教科の平均正答率が低い傾向があります。SNSや動画視聴などをする時間が「4時間以上」と答えた児童と「30分より少ない」と答えた児童の「平均正答率」との差は、国語で「16.3」ポイント、算数で「17.2」ポイント、理科で「16.2」ポイントでした。

「前年度までに受けた授業で、ICT機器をどの程度使用したか」は、「週1回以上」が約40ポイント増加し約84ポイントとなり使用頻度が増加したことが伺えます。

2 南小学校の結果の概要

(1) 国語

国語は、全ての問題において、愛知県の結果より平均正答率が高くなっています。そして、児童質問紙の集計結果から、国語の学習の必要性は理解できているが、興味や関心はあまり高くはないことが分かりました。

「話し言葉と書き言葉の違いの理解」や「漢字や仮名を正しく書くこと」などの「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題は、よくできていました。今後も、児童の国語における知識及び技能を伸ばしていけるよう指導を続けていきたいと思います。一方で「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめること」や「文章に全体に対する感想や意見を伝えあい、自分の文章の良いところを見付けること」などの「思考力・判断力・表現力」を求める記述式の問題に課題が見られました。今後は、伝え合う活動や文章を書く活動をより一層授業に取り入れ、ICT 機器などを活用させながら学習を進めていきたいと考えています。

(2) 算数

算数は、ほぼ全ての問題において、愛知県の結果より平均正答率が高くなっています。また、児童質問紙の集計結果から、算数の学習の必要性は理解できている、興味や関心も高いことが分かりました。

計算問題、数の表記に関する問題は、よくできていました。しかし、適切な数の処理（概数）を選択する問題、割合や比例に関する記述式の問題の正答率がやや低く、「思考」に関わる内容に課題が見られました。これらの内容は苦手意識を持っている児童も多いので、授業において既習内容の確認や ICT 機器を用いたドリルでの復習などを行い、卒業までに確実に力を身に付けさせたいと思います。

(3) 理科

理科は、ほぼ全ての問題において、愛知県の結果より平均正答率が高くなっています。また、児童質問紙の集計結果から、理科の学習の必要性は理解できている、興味や関心も高いことが分かりました。

理科における得意、不得意な領域は見られませんでした。しかし、「実験で得た結果を分析し、考えたことをまとめる」など記述式の問題の正答率がやや低く、「思考」に関わる内容に課題が見られました。今後の授業において、知識のみの習得に留まることなく、実験結果からどうしてそのような結果になるのかをしっかりと考察、まとめさせる場面を設定するなど、工夫して学習を進めていきたいと考えています。

(4) 質問紙

朝食・就寝・起床等、多くの児童が、規則正しい生活を送っているという結果が見られました。

「学校に行くのは楽しいと思う」「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた児童の割合は全国・愛知県の結果より高く、将来に向けて前向きな気持ちで楽しい学校生活を送っている児童が多いと思われます。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた児童の割合は全国・愛知県の結果より高く、多くの児童が正義感を持って学校生活を送っていると考えられます。

学校生活全般を通して、児童が上記のような前向きな気持ちを他者に認めてもらえていることが感じられるような取組を実践していくとともに、児童同士の対話や教師と児童との対話を大切にしながら、児童の学校での居場所づくりに尽力していきたいと考えています。